

あまてらすおおみかみ  
天照大御神

あまてらすおおみかみ たかまのはら かむづま てんちしほうしんじんぶつ しゅさい  
天照大御神は高天原に神留りまして、天地四方神人物を主宰  
し、照臨の神徳に至らざる無きの義なり。

すめおおかみ すべおおかみ ぎ な ぎ  
皇大神は統大神の義なり。宇宙を統べて万神の徳を合わせ玉  
うの義なり。

おおかみ しんとく あお けいきょうしゅくはい かなら おおみな とな  
この大神の神徳を仰ぎ敬恭肅拜するに必ずこの大御名を称う  
べし。

もろもろ あくねん ぎな おおみな とな  
もしあやまちて諸々の悪念を萌さばこの大御名を称うべし。

もろもろ ぜんねん はつ おおみな とな  
もし諸々の善念を発せばこの大御名を称うべし。

もろもろ こうぶく おおみな とな  
もし諸々の幸福を得ればこの大御名を称うべし。

もろもろ さいやく じつむ おおみな とな  
もし諸々の災厄を被ればこの大御名を称うべし。

よく かく じこ じころ まじこ こ おおみな とな あくねん たちま  
能く此の如く心に誠に此の大御名を称うるときは、悪念は忽

ち消して善志に移り、善念は愈々張りて行いを遂げ、幸福は益々  
だい ぜんし うつ ぜんねん いよいよは おこな と しゅうしんぶくよう

大にして子孫に伝え、災厄は変改して福祥となり、終身服庸し  
かく じこ みょうじゅう のちかなら たかまのはら むりよう ぶくし

て此の如くなれば命終の後必ず高天原に帰して無量の福祉を  
う とくきゅうぞく ひ とも こじやく じつむ なたが うたが

受け、その徳九族に延きて共に娯樂を蒙ること更に疑いなきと  
ころなり。

しんてん はいどく じつりしんぶつこのぎ たつ もつ だいいち しんおう  
神典を拝読するの实理眞要此義に達するを以て第一の深奥とす。

皇大神宮主典 山口起業

(明治七年 神典採要通解眼目より)